

若者の就労支援 課題と対策のミスマッチ

若林ともこ(プロジェクト座長/県議/ネット青葉)

景気は緩やかに持ち直していると言われますが、若者の厳しい雇用情勢は相変わらず続いています。神奈川ネットの若者就労支援プロジェクトでは、就労支援、定着支援を実践する現場を調査するとともに、県の就労支援事業について課題と制度がマッチしているのか、検証しています。

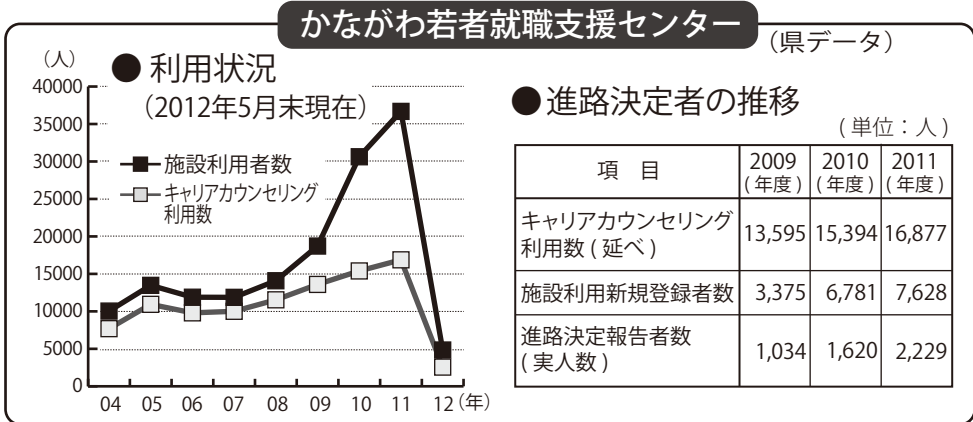


利用者が急増

「かながわ若者就職支援センター」

内定率は数字のマジック

県が設置・運営する「かながわ若者就職支援センター」(横浜西口STビル内)は、キャリアカウンセリングなど若者の就職活動支援に取組む施設で、国の機関であるハローワークコーナーも併設されています。フリーターやニートの就業支援をすることを目的に開設された施設で、39歳までを対象としています。2010年以降利用者が急増し、開設当初の利用者数の3倍強にもなり、本来想定していた支援対象者を超えた大学生の利用が広がっています。今春には、カウンセリングの予約が取れない状況が続きました。4月末に同じビル内に「新卒ハローワーク」も開設され、ようやく利用数も落ち着いています。



就労困難とされている人のうち、障がい者について、神奈川県は独自に、職場定着等を支援する「障害者ジョブコーチ(企業内育成型ジョブコーチ)及び派遣型ジョブコーチ」を養成する講座を開催するとともに、派遣型障害者ジョブコーチを派遣する取組みを行なっています。しかし、昨年度60人の養成をめざしていた企業内育成型ジョブコーチは、36人に留まり、また、派遣型ジョブコーチも29人となっていました。養成講座やジョブコーチのマッチング事業は、神奈川県障害者就労相談センターに委

ジョブコーチ制度の課題

託されていますが、十分に周知されておらず、また、センターを通してマッチング事業であることから、独自に障がい者を受入れ定着支援を行なっている小規模事業者にとつては制度を活用しきれないという課題があります。県独自の事業であり、今後制度の見直しも含め、障がい者にとつての働き場を広げる提案に取組みます。

また、障がい者雇用においては、最低賃金の適用対象外とする措置制度が広く活用されていますが、若者の体験・訓練就労については、厚生労

大飯原発再稼働に抗議

省エネ・節電による脱原発社会を



神奈川ネット政策部長 岩本 香苗 (ネットさがみはら)

7月1日21時、大飯原発が再起動しました。6月16日に野田首相が再稼働を決めて以来、毎週金曜日に続けられてきた首相官邸前の抗議行動も、回を重ねる毎に集まる人の数が増え、29日には15万人の人々が集まったとも報道されました。しかし、これらの声も政府には届かず、見直しはなりませんでした。6月末の大手電力会社の総会では、経営側から原発再稼働の必要性ばかりが語られました。福島第一原発事故の衝撃がもはや過去のことであるかのようです。

事故後の計画停電は、必要のないものでしたがその経験により、私たちは、過度に電力に依存する生活の危うさに気付きました。原発関係者も含め、多くの人の暮らしを壊してしまつた原発事故。放射能汚染は、二度とあつてはならないのです。今こそ、電力消費のあり方を見直し、省電力・脱原発社会へと大きく舵を切る時です。

神奈川ネットは、大飯原発再稼働に反対し、原発に依存することのない地域にあつたエネルギー自治社会をめざします。

政治は真に「市民生活の安全・健康・環境」を何より優先し、持続可能な社会をつくる選択を示すべきです。神奈川ネットは、まず私たちが取組むべきは省エネ・節電であると考え、自治体等に照明・空調などの切り替えによる節電を働きかけています。鎌倉市では6月議会でも、神奈川ネット発の議員提案により、県内で初めての「鎌倉市省エネルギーの推進と再生可能エネルギー導入促進に関する条例」が制定されました。市民と共に具体的なエネルギー計画をつくり実行していく条例です。

「コミュニティキッチン ぼらん」(横浜市瀬谷区)

ぼらんは、ワーカーズ・コレクティブ協会が就労困難者とされている障がい者・若者を対象に設立した惣菜作りの働き場です。公的的制度によるジョブコーチの配置が難しい中、地域で活動するワーカーズコレクティブメンバーがボランティアに関わっています。ジョブコーチ制度の見直しや、若者の訓練雇用への公的サポートが求められています。

30年にわたるサポート活動 はしどデポー(横浜市瀬谷区)

はしどデポーは生活クラブ生協の店舗です。地域に暮らす女性たちによるワーカーズコレクティブが店舗の運営を担ってきました。ライフステージに添って子育てや介護など生活と仕事の調和をはかりながら「働き方を自ら決める」実践によって、多様な参加と働き方を可能としています。メンバーが対等に関わり合うワーカーズ組織と、それを支えるボランティア組合員の協力の力を生かし、障がい者・困難を抱える若者も受け入れ、中間的な就労の場となっています。瀬谷区の養護学校を卒業後、30年にわたりデポーで働いてきた障がいのある男性ワーカーは、ジョブコーチのような存在である多くの組合員に支えられて働いています。